

●個別学習
■児童生徒実践型

実践タイトル タブレットPCを用いたコミュニケーション

本時のねらい

発声が不明瞭で文字の習得も難しい生徒のコミュニケーション手段として、タブレットPCを利用してシンボルを習得し、多くのシンボルの中から必要なシンボルを選択して、伝えたい内容を構成し、他者とのやりとりを成立させることができるようにする。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

タブレットPC

初めて会う人にでも自分の意思を伝えることができるようになるために、シンボルの理解と共に操作の方法を習得し、伝えたい内容に合うシンボルを画面上に提示して、やりとりの成立をめざす。

PC教材

市販VOCAアプリ「DropTalk」(©Droplet Project)は、シンプルで分かりやすいデザインのドロップスシンボルを使用している(本校の特別教室表示にも使用)。シンボルに対応した音声で、正しくシンボルが選択できているか確認できたり、あらかじめ用意されたシンボルに当てはまらない時は、設定された各カテゴリーから必要なシンボルを選び出すこともできる。

参考にしてほしいポイント

自分のしたことや意思を伝えることができるようになるには、状況を把握して、または伝えたいことを整理して、複数のシンボルを構成し表現する力が必要となる。静止画・動画・自分自身の体験と段階的に展開していく中で、伝えたい内容を3~4枚のシンボルで表すことができるようになるには、タブレットPCの活用は欠かせない。膨大なシンボルの中から簡単にシンボルを選択することができ、音声も入っているので、選択したシンボルが間違っても自分で気付いて修正することができる。また、授業で使用した動画も簡単に録画でき、すぐに提示して授業に生かすことができる。

学習の流れ(分)	主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等	
本時の展開	0 導入	○はじめのあいさつ ○天気調べ ○体調を伝える	・タブレットPC ・PC教材
	10 展開	○動作絵カードを提示し、その内容をシンボルを使って表す(写真1) ・「誰が」「何を」「どうした」の順に3枚のシンボルを選択(写真2) ○動画を見て、何をしているのかシンボルで表現する(写真3) ・予めタブレットPCで撮った「先生が新聞を読む」「友達が階段を昇る」動画を見る	・タブレットPC ・PC教材 ・動作絵カード
開	30 まとめ	○学校行事「遠足」での出来事をシンボルを使って伝える ○おわりのあいさつ	・タブレットPC ・PC教材 ・カレンダー
45			

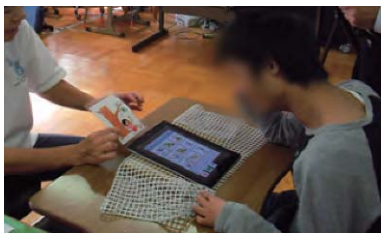


写真1: 動作絵カードの内容をシンボルで表す

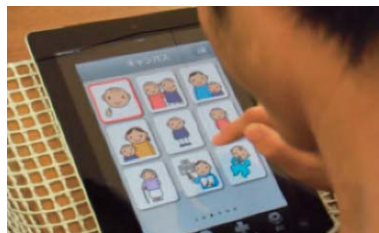


写真2: シンボルを選択しているタブレットPC画面



写真3: 動画を見て何をしているのかシンボルで表す

児童生徒の反応

家庭でゲーム機を使用していることから、タブレットPCへの興味・関心が強く、操作方法も早期に覚えることができ、学習に対して意欲的であった。また、シンボルの選択だけでなく、録画したり、それを再生することも覚え、タブレットPCの機能を色々な場面で使用できるようになることが今後予想される。

活用効果

評価の観点	自立活動コミュニケーションの基礎的能力
具体的変容	発声は単語レベルではあるが、動画を見てその内容を表す際に、シンボルによる多語文の表現ができつつある。

実践の手応え

タブレットPCを使用するまでは、シンボルカード(約1500枚)を使って指導していたが、生徒に多くの枚数のカードの中からシンボルを選択することは難しく、授業者自身も必要なカードを準備したり、その日の話題に応じてカードを提示することに困難を感じることもあった。タブレットPCを使用するようになって、生徒が主体となって多くのシンボルの中から選択することができたり、本時のように動画を教材として簡単に準備・提示でき、そして何より生徒が興味・関心を持って取り組むことで、積極的にシンボルを使ってコミュニケーションをとろうとする気持ちや態度を育てることができた。今後はタブレットPCを家庭でも使用して、その日にあったことや行事の内容などを家族に伝えることができたり、また逆に家庭での出来事を学校で先生や友だちに伝えることができるように指導を継続したい。なお、卒業後は、スマートフォンなどの携帯性が高く、電話も利用できるようなコミュニケーション機器に転向していくことが考えられるが、それらを使ってスムーズなコミュニケーションを誰とでもとれるようになり、社会参加ができればと考える。